◆連載 いま留萌むかし

●留萌支庁

増毛支庁は三月移転留萌警察本署と変更。

増毛支庁は本年三月中留萌町へ移転と内定明日勅令を以て告布さるべし同時に留萌警察分署は本署に変更され其他諸官庁移転するに至るべし

これは明治四十三年二月二十三日付で出た留萌新聞の号外の記事である。実際に増毛支庁が留萌に移転したのは大正三年のことであった。

管内の行政の中心地は明治に開拓使が設置されてからは最初、留萌にあった。明治五年に宗谷支庁留萌出張所が開設され、明治六年留萌支庁と改称され、明治八年支庁を廃止し、札幌本庁留萌出張所となり、明治九年には開拓使留萌分署となり、明治十二年、郡区町村制にともない留萌外五郡役所となった。しかし、当時留萌よりも増毛のほうが人口も多く、管内一の繁栄をきわめており、明治十四年留萌外五郡役所は増毛に移転し、増毛外五郡役所として開設され、名実共に管内の行政の中心地となった。

この明治五年から明治十四年までを第一次留萌支庁時代とでも言うことが出来よう。最初の留萌出張所の位置は現在の元町にあり、留萌港築港の際に港になってしまっている。官員の官舎は明治まで留萌を支配していた庄内藩の脇陣屋跡をそのまま利用したという。

当時、留萌を訪れた松本十郎大判官の「巡回誌」によると

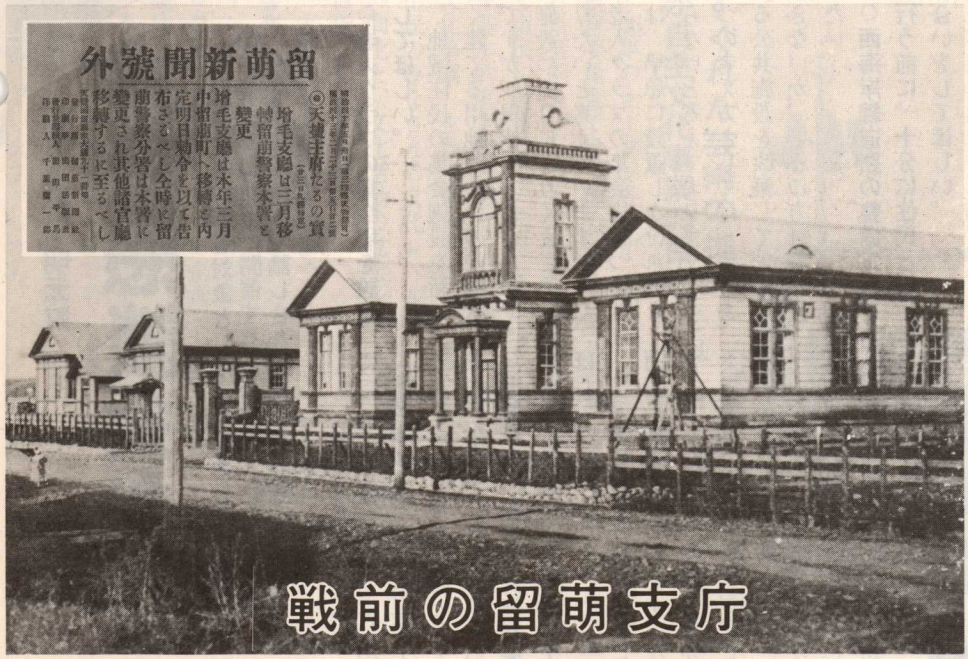
「マサリベツ官邸五戸小川をはさみて順々奥にあり、海風にも自然遠かり厳寒の凌ぎも宜しきようにみえ、官邸総て松前切組み故木材能く間取り方も頗る体裁宣し、札幌判官己下の官邸に勝ること一等なり。」と記されている。

その後、留萌は築港誘致運動を町民一致団結して押し進め、遂に留萌港の築港を誘致した。その結果、明治四十三年には鉄道が開通し、留萌港の築港工事も始まり、人口も急激に増加し、市街地も整い、留萌管内の交通、物流の要衝として繁栄するようになった。このころから、管内の行政の中心である支庁の留萌移転問題がしきりにささやかれるようになった。それが冒頭とりあげた留萌新聞の号外である。

しかし、この号外ははやとちりであったらしく、この年には実現しなかった。その後の留萌の人たちの心のささえになったことは間違いがない。

大正三年、念願の支庁が増毛から留萌に移転し留萌支庁として開庁した。三十三年間の空白をおいて第二時留萌支庁時代の幕明けである。これ以降現在に至るまで管内の管轄地の区域の変更はあったが一貫して留萌管内の行政の中心地として歩んできている。そして、そのシンボル的建物が写真にある留萌支庁の建物である。第二次留萌支庁時代の最初の建物であり、戦前の北海道庁の権威の象徴であった。

今、新しい留萌管内の時代を象徴するかのように新しい庁舎の建築が計画されている。新しいルモイの創造が期待される。



戦前の留萌支庁

・特集 はまなす国体を成功させよう。

昭和63年6月／発行・留萌市
編集・企画 振興室
印刷・白鷗印刷株式会社
1988
6